

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

スポーツ健康学研究科は2016年度に開設され、スポーツ健康の専門分野に対応した適切な履修モデルを提示しており、完成を迎える2017年度はスポーツ健康学の分野における多面的な高度専門職業人材の輩出が期待される。2年間で蓄積されたデータを定期的に点検・評価し、今後の自己点検改善に活かしていただきたい。特に内部質保証委員会の組織上の位置づけや活動内容については、今後、より具体的に議論されていくことになると思われるので、今後の取り組みを期待する。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

完成を迎えた2017年度において、開設初年度入学者のM2生（5名）の修了を無事に認めた。また、本研究科の社会的認知度も上がっていることを示すように、2018年度入学者は13名あり（定員10名）、活況を呈するに至っている。授業、修士論文指導・審査、研究科内における各学生の研究成果発表会、年3回の入試等、研究科業務は当初の計画通り順調に進んでいる。今後も気を緩めることなくそれら業務に専念するとともに、例えばご指摘の内部質保証委員会（より客観性をもたせるために2017年度において他学部所属で本研究科兼任教員の2名に依頼し配置した）の位置づけと機能についてもより明確にしていく必要がある。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ健康学研究科は、2016年度に開設され、完成年度の2017年度に5名の修了生を輩出している。2018年度の入学者は、定員10名に対し13名であり、社会的認知度が高まっていることが伺える。その点で、2年間で得た教育成果を検証し、目標とするスポーツ健康学の分野における多面的な高度専門職業人材の輩出がさらになされるような継続的な取り組みを期待したい。質保証のための体制の強化が図られ、兼任教員2名が質保証委員に配置されており、今後の具体的な取り組みに期待したい。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

スポーツ健康学研究科が目的とするのは、スポーツ健康の分野において現代社会が期待する多面的な高度専門的職業人の養成であり、そのためには「スポーツ健康学」分野において、ある特定の専門分野を深化させるだけでなく、関連する分野を総合的に学んでいくことが必要である。

幅広いスポーツ健康学に関わる基礎知識をベースに、スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営、実践・指導、点検・評価することのできる実践力の高い人材を育成し、健康の維持・増進とスポーツ発展に関わる多様な領域で社会に寄与できる指導者や研究者を育成する。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】（教育目標）※大学院学則別表（ ）

広範なスポーツ健康学に関わる基礎知識と実践力を兼ね備えた、社会のスポーツ健康学分野における多様なシーンで活躍できる高度専門的職業人を養成する。

- ・ 競技スポーツや教育現場において高度な指導能力を発揮できる人材
- ・ 生涯を通じての積極的な健康づくりを支援できる人材
- ・ スポーツに関わる組織や人の特性を知り、時代の要請に応じたよりよいスポーツ社会の実現を可能ならしめる人材

①研究科（専攻）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか

はい いいえ

②研究科（専攻）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。

はい いいえ

③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

（～400字程度まで）※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

研究科の構成員（14名）による教授会を月1回のペースで定期的に開催し、学生状況、指導状況等に関する意見交換を行い、理念・目的が実態とマッチしているかをチェックしている。また、学内選抜・秋季一般入試・春季一般入試と年に3

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

回の入試を実施し、その際にも、入試問題の適切性とどのような入学者を受け入れるべきかについて、理念・目的の観点から意見交換を行っている。(なお、研究科の構成員は2018年度から新規採用教員3名が加わり、他学部からの支援教員1名が減ることにより構成員は計16名となる。)

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①研究科(専攻)の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。 はい いいえ

②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか

(~400字程度まで) ※具体的な周知・公表方法を記入。
法政大学スポーツ健康学研究科のホームページ・大学院要項・説明会・全教員によるオムニバス授業(研究デザイン・フィロソフィー)のシラバス等を通して周知。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
全専任教員によるオムニバス授業(研究デザイン・フィロソフィー)を通して、教員および学生が本研究科の理念・目的を共有。	1.2②

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科として目指すべき方向性を明らかにした理念・目的が、大学の理念・目的を踏まえて明確に設定されている。その理念・目的が実態に即しているかの検証は、学生状況、指導状況に関する意見交換を、月1回の定期的に行われる教授会にてチェックされており、適切に行なわれていると評価できる。
研究科の理念・目的はホームページや大学院要項に明示されており、教職員や学生等に周知され公表されている。特に、全専任教員によるオムニバス授業(研究デザイン・フィロソフィー)を通して、教員および学生が本研究科の理念・目的を共有している点は評価できる。

2 内部質保証

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム(質保証委員会)を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2017年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。
・修士論文審査基準の共有(2018年1月20日)
・履修モデルの検討(2018年3月20日)

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科の質保証委員会については、年度に2回開催され、修士論文審査基準の共有と履修モデルの検討

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

がなされたことが示されており、機能していることがうかがえる。今後、完成年次を迎えたこともあり、これまでの実績のデータの蓄積と共有化による、より体系的な質保証委員会による PDCA サイクルの活性化を期待したい。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

下記の能力を備えた学生に学位を授与する。

(知識・理解)

DP1 豊かな人間性と社会性を支える広い教養を見につけている。

DP2 「スポーツ」と「健康」およびそれらを取りまく「社会環境」について体系的に理解している。

DP3 高度で専門的な知識を有している。

(思考・判断・表現)

DP4 自ら設定した課題について、適切な研究方法を用いて考察することができる。

DP5 自ら設定した課題について、論理的に説明することができる。

(関心・意欲・態度)

DP6 スポーツ健康学の知を探求し、社会に貢献する意欲がある。

(技能)

DP7 スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営、実践・指導、点検・評価することができる。

①研究科(専攻)として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(修了要件)を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

研究科の人材育成目的達成のために、下記のような教育課程を編成している。

基礎科目：

●スポーツ健康学分野における基礎的かつ幅広い知識を修得するため、全専任教員によるオムニバス式科目の「研究デザイン・フィロソフィー」、また、「スポーツ健康学特論」として「人文社会科学」「自然科学」「心身科学」の3科目を置き、すべて必修とする。

展開科目：

●基礎科目で修得した知識を土台にして、修了後の職業を見据えた専門的な学びを発展させることを目的とし、3つの科目群を配置する。

・スポーツコーチング科目群：競技スポーツや教育現場において高度な指導能力を発揮するための知識と技能を修得する科目群

・ヘルスプロモーション科目群：生涯を通じての積極的な健康づくりを支援できるための知識と技能を修得する科目群

・スポーツマネジメント科目群：スポーツに関わる組織や人の特性を知り、時代の要請に応じたスポーツ社会の実現に役立つ知識と技能を修得する科目群

●「スポーツ健康学」の多様性に鑑み、科目群ごとの履修条件は設けないが、修了後の進路として想定される職業分野ごとに履修モデルを提示する。

研究指導科目：

●修士論文作成指導を行う科目。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい いいえ

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ (http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in.html#18) ・法政大学スポーツ健康学研究科大学院要項 	
<p>③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。 年度末の3月に開催した2回の教授会において、1年間を振り返り次年度への課題を抽出した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	
<p>①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。 必修である基礎科目の「研究デザイン・フィロソフィー」は、全専任教員によるオムニバス方式で開講され、研究倫理諸問題から学会発表や論文投稿までの研究プロセス、データ統計のスキル等、幅広く学び、「スポーツ健康学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」は1つの学問領域としてのスポーツ健康学を心身科学、自然科学、人文社会科学をそれぞれ高い相互補完関係を持ちながら学修する。これらを基礎として、各院生の進路に合わせてスポーツコーチング科目群、ヘルスプロモーション科目群、スポーツマネジメント科目群からバランスよく履修することで、深い専門性とスポーツ健康学の幅広い領域をカバーする知識を身に付ける。また、2年間にわたって指導教授の下「スポーツ健康学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」によって修士論文作成に取り組む。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。</p>	はい いいえ
<p>【根拠資料】 ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程の設置が無いため該当なし 	
<p>③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。</p>	S A B
<p>(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。 博士後期課程の設置が無いため該当なし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程の設置が無いため該当なし 	
<p>④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 展開科目において、基礎科目で修得した知識を土台にして、修了後の職業を見据えたより専門的な学びを発展させることを目的とした教育内容を提供している。その構成は、スポーツ・健康に関わる理論的知識を修得させる特論科目と、重要な課題に対し実践的な対応能力を身につけさせる演習科目から構成される。なお、展開科目では「スポーツ健康学」の多様性に鑑み、科目群ごとの履修条件は設けませんが、職業の分野ごとに履修モデルを提示し、学生はこれに準拠して展開科目を履修することで、修了後の進路に適した学びを修めることができるようにしている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>(～400字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。 2017年度は2名の学生が海外において学会発表を行い、本学の海外研究活動補助の助成金を受けた。</p>	
<p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2017年度において専任教員を募集し、グローバルな人材たる外国人1名の採用を決定した。2018年度以降は、当教員によるグローバルな視点からの授業(トレーニング理論)を展開する。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【履修指導の体制および方法】 ※簡条書きで記入。 ・新入生オリエンテーションの際に、複数の教員が履修指導に当たった。 ・担当指導教員が各指導学生の確認を行った。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
【研究指導計画の明示方法】 ※簡条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。 ・M1(11月)の研究構想発表会、M2(4月)の研究計画発表会、M2(9月)の研究中間発表会において教員および他の院生・学部生の前で進捗状況を報告、M2(1月上旬)に修士論文を提出、M2(1月中旬)の最終発表会、M2(1月下旬)の口頭試問・審査、教授会において合否を判定。以上のスケジュールを明示。	
【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。 ・スポーツ健康学研究科大学院要項	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
(～400字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。 基本的に週に1回以上、主指導教員による指導を実施し、副指導教員は定期的に主指導教員の研究指導補助にあたる。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・執行部がシラバスをチェックしている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・一部において相互授業参観を行っているが、記録はとっていない。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
【確認体制および方法】 ※簡条書きで記入。 ・各授業については確認していない。修士論文の評価については全教員で確認している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
【学位論文審査基準の明示方法】 ※簡条書きで記入。 ・大学院要項に審査までの流れを記載。 ・オリエンテーションの際に、副研究科長が説明。	
【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・スポーツ健康学研究科大学院要項	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※簡条書きで記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・スポーツ健康学部事務課に保管。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>指導教員による日々の指導に加えて、修士論文を提出するまでに、構想発表会、計画発表会、中間発表会の3回の発表の機会があり、指導教員以外の教員や他の大学院生等からの質問や助言を受けることにより、水準が保たれるようにしている。また、副指導教員が修士論文提出前に論文内容をチェックし、主指導教員と意見交換するようにしている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【修士】 (～400字程度まで) ※責任体制および手続等の概要を記入。</p> <p>教授会により決定した修士論文審査員(1名の主査と2名の副査)が、提出された修士論文を査読した後、口頭試問を行う。また、修士論文最終発表会において修士論文審査員を含む全専任教員が審査して、教授会において合否を判定する。</p> <p>【博士】 (～400字程度まで) ※責任体制および手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。</p> <p>該当なし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科(専攻)単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※簡条書きで記入。</p> <p>・スポーツ健康学部事務課においてデータを保管。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>今後行うこととしている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(取り組み例:アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。</p> <p>すべての授業が少人数であるため、担当教員が各学生の学習効果をきめ細かく把握している。また、2年間で4回の研究成果発表会を全教員の前で実施し、質疑応答を通して学習成果を評価している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>現段階では未実施。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。

授業改善アンケート自体は、すべての科目で採ることとしているが、組織的に利用はしていない。

本研究科では、受講者が少人数であるため(2017年度のM1は8名、M2は5名であり、必修科目以外はさらに受講者が減る)、アンケート結果はほとんど参考にならず、院生と教員が直接コミュニケーションを取ることで授業改善を目指すことが可能な状況である。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
学位授与方針に明示された学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みについて、今後行う必要があると考えられる。特に、本研究科の理念・目的として「高度専門職業人の養成」を掲げているので、修了者が社会においてどのような活躍をみせているのかを把握する方法を設定することが課題となる。	3.6①

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

スポーツ健康学研究科の教育課程・教育内容については、研究科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件を明示した学位授与方針が、適切に設定されている。そして、その人材育成目的の達成のために、基礎科目、展開科目、研究指導科目による教育課程がバランス良く配置されている。そして、それらの内容は、ホームページにより広く公表されるとともに、大学院要項により学生に周知するよう図られている。

教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は適切に設定され、ホームページ等で周知、公表されている。完成年度にあたり、年度末に開催された2回の教授会において、年間の振り返りを行い次年度への課題を抽出したことは、教育の質の改善への取り組みがなされている点で評価できる。

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

スポーツ健康学研究科の修士課程において、コースワークとしての基礎科目である「研究デザイン・フィロソフィー」が必修科目として開講されており、研究方法を修得する上で、有効に機能していることがうかがわれる。また、その他の科目についても、各院生の進路に合わせてバランスよく履修できるように配慮されていると判断される。専門分野の高度化への対応については、特論科目と演習科目から構成される「展開科目」が担っている。グローバル化推進のための取り組みとして、2名の学生が海外において学会発表を行ったり、新たに外国人教員1名を採用しており、今後のより一層の取り組みに期待したい。

③教育方法に関すること (3.4)

スポーツ健康学研究科の教育方法について、履修指導は、オリエンテーション等を通して適切に行われている。研究指導計画が明示されており、特に修士論文の提出までに、構想発表会、計画発表会、中間発表会の3回の発表の機会を設け、研究の質の水準を保つように努めている点は、評価できる。シラバスが適切に作成されているかの検証は、執行部が行っている。授業がシラバスに沿って行われているかの検証は、一部科目において相互授業参観が行われているが記録はとられていない。

④学習成果・教育改善に関すること (3.5～3.7)

スポーツ健康学研究科の成績評価と単位認定についての適切性の確認は、修士論文の評価を全教員で確認することで行われているものの、各授業については確認していないとのことであり、先ず教授会等で実態の共有化を図ることが求められる。学位請求論文の審査基準は、審査までの流れとともに大学院要項に記載しオリエンテーションの際に説明しており、

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

適切である。学位授与状況の把握、学位授与に関わる責任体制及び手続きは、主指導教員、副指導教員による指導体制、3回の研究報告の機会を設けるなど、学位の水準を保つための対応が適切に行われている。今年度から入学生が増加しており、今後とも学位の水準を保つための継続した取り組みに期待したい。

学生の就職・進学状況の把握は研究科事務で行われているが、教授会等でも情報の共有が望まれる。また学習成果を把握・評価するための指標は特に設定されておらず、今後設定されるとのことであるが、研究科の特長を良く把握したうえで、適切な指標の導入を期待する。学習成果の把握及び評価については、2年間で4回の研究成果発表会を、全教員が参加し行っていることは高く評価できる。今後、これらの成果を、教育課程の内容や教育方法の改善に向けた取り組みに結びつけていくことを期待したい。特に、問題点として記述している学習成果を測定する適切な指標の設定、修了者が社会においてどのような活躍をみせているかを把握する方法の設定などの取り組みを実現することを期待したい。

学生による授業改善アンケートは、受講者数が少ないため、アンケート自体の実施が難しく、組織的な活用も難しいため、院生と教員が直接コミュニケーションを取ることで授業改善を目指している。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	
【学生の受け入れ方針】 下記の能力を備えた受験生を、各種選抜試験を通して入学させている。	
<ol style="list-style-type: none"> 入学後の就学および研究活動に必要な知識や技能を有している。(知識・理解) <ul style="list-style-type: none"> ● 「スポーツ」と「健康」に関わる基本的な知識を持っている。 ● 研究活動に必要な基本的な技能と、外国語の理解力を持っている。 物事を多面的かつ論理的に深く考察することができる。(思考・判断) 人間、スポーツ、健康、教育などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、高度専門的職業人として社会に貢献する意欲がある。(関心・意欲) 積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を持っている。(態度) 自分の考えを適格に表現し、伝えることができる。(技能・表現) 	
①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。 2017年度 3.1①に対応	はい いいえ
4.2 学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	
①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>全専任教員(「指導希望教員」を除く)により、出願書類の研究計画と将来展望の評価を行う。研究科を構成する3つの研究領域から1名ずつ選出された入試委員が筆記試験の出題をする。口述試験は入試委員に研究科長を加えた4名で担当する。書類審査、筆記試験(専門および英語)、口述試験の得点の合計を算出して入試判定教授会にはかり、合否を判定する。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行なうとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。	はい いいえ
<p>(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。</p> <p>2016年度に実施した計3回(学内選抜・秋季一般入試・春季一般入試)の入試の結果、定員である10名を合格としたが、他大学研究科や未入学の者が出たため、結果的に8名の入学者となった。なお、2017年度に実施した計3回入試では、20名の受験者があり、結果、13名を合格とした。2018年度の現状では、M1とM2で計21名となり、収容定員+1名増である。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

定員充足率（2013～2018年度）（各年度5月1日現在）

種別\年度	2017	2018
入学定員	10名	10名
入学者数	8名	13名
入学定員充足率	0.80	1.30
収容定員	20名	20名
在籍学生数	14名	21名
収容定員充足率	0.70	1.05

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】大学院研究科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合の提言指針】※改善勧告なし

提言	努力課題
修士・博士共通	2.00以上

【定員未充足の場合の提言指針】※改善勧告なし

提言	努力課題
修士	0.5未満
博士	0.33未満

4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証を行ない、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

2017年度実施の入試において、入学定員の約2倍の受験者があり、2018年度実施の入試も受験者が多いのかどうかを見守る必要がある。また、研究科専任教員として新規に3名が増えたため、学生への対応力は上がっていることもあり、今後、定員枠を見直すかどうかに配慮する必要がある。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
明言はできないが、内部進学だけでなく他大学からの入学希望者も増えつつあり、開設から3年目に入り、本研究科の社会的認知度は上がっていると考えられる。	4.3①

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科の学生の受け入れ方針については、求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を多面的に明示しており、適切であると評価できる。この受け入れ方針に基づき、入学者選抜は、適正に実施されている。定員の充足率についても、2018年度入試において大幅に受験者が増加し、入学者の増加に伴い収容定員が大幅に改善されていることは、高く評価できる。

このような成果を継続するための取り組みが維持・向上されることを期待したい。

5 教員・教員組織

【2018年5月時点の点検・評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準
- ・スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準
- ・法政大学スポーツ健康学研究科(修士課程)における研究指導担当資格審査基準に関する申し合わせ

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・研究科長
- ・研究科教授会主任
- ・研究科教授会副主任
- ・研究倫理委員会

【明示方法】※箇条書きで記入。

・

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①研究科(専攻)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(~400字程度まで)※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

スポーツ指導法の確立に関連して、コーチング、バイオメカニクス、トレーニング学、メンタルトレーニングを専門とする教員を配置している。また、学校体育教員としての資質・能力の形成については、スポーツ教育学、保健体育科教育法、発育発達学の観点から、実践経験豊かな教員を配置している。医学、健康体力学、健康心理学、公衆衛生学、スポーツ栄養学に関して理論的な知識を修得させるための教員を配置し、運動疫学、体力・機能測定評価に関する実践的な対応能力を身につけさせる演習の担当も、高い知識と技能を有する健康づくりの指導者を養成できる教員を配置している。スポーツを取り巻く、スポーツ社会そのものを巨視的な観点から分析する、マネジメント、マーケティング、政策等の分野において、多くの優れた研究業績を上げている教員だけでなく、スポーツの現場において長年ジャーナリズムやメディアの実務を経験してきた教員も配置している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

2017年度教員数一覧

(2017年5月1日現在)

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	設置基準上必要教員数	
			研究指導 教員数	うち教授数
修士	13	9	4	3

研究指導教員1人あたりの学生数：1.3人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】(~200字程度まで)※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

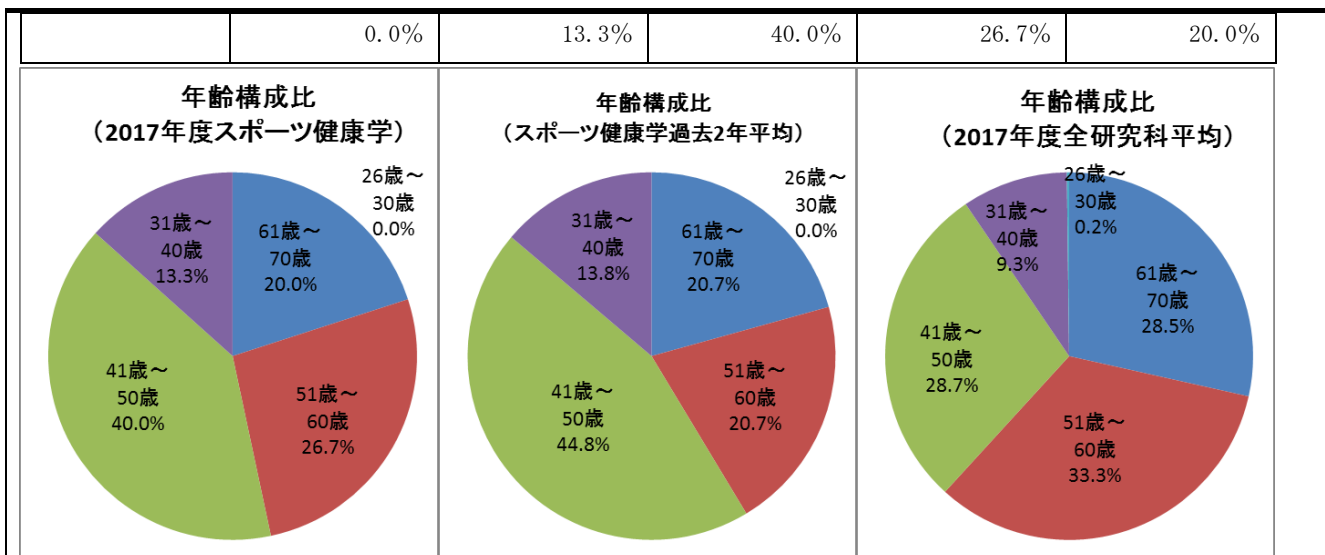
年齢構成一覧

(2017年5月1日現在)

年度\年齢	26~30歳	31~40歳	41~50歳	51~60歳	61~70歳
2017	0人	2人	6人	4人	3人

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【**根拠資料**】※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

- ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準（2017年10月改訂）
- ・スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準（2017年10月改訂）
- ・法政大学スポーツ健康学研究科（修士課程）における研究指導担当資格審査基準に関する申し合わせ（2017年2月策定）

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【**教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制**】※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を簡条書きで記入。

- ・学部において、専門分野や年齢構成等、偏った教員構成にならないよう、委員会設置→候補者選定→業績審査→教授会決定という一定の過程を設けている。その任免・昇格のプロセスの中で、研究科における研究指導担当資格審査基準との整合性も検討している。

【**根拠資料**】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準（2017年10月改訂）
- ・スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準（2017年10月改訂）
- ・法政大学スポーツ健康学研究科（修士課程）における研究指導担当資格審査基準に関する申し合わせ（2017年2月策定）

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）内のFD活動は適切に行われていますか。

S A B

【**FD活動を行うための体制**】※簡条書きで記入。

- ・特にFDの為の組織は設けずに、執行部が中心となり進めている。

【**2017年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）**】※簡条書きで記入。

- ・2月27日、スポーツ健康学部棟2階会議室B・C、研究デザイン・フィロソフィーの授業運営、11人
- ・3月13日、スポーツ健康学部棟2階会議室B・C、修了までの指導方針、11人

【**根拠資料**】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②研究活動を活性化するための方策を講じていますか。

S A B

【**研究活動活性化の取り組み**】※簡条書きで記入。

- ・「研究指導担当資格審査基準」に基づいた審査を随時行っているため、研究活動は自ずと活性化されると思われる。

【**根拠資料**】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学スポーツ健康学研究科（修士課程）における研究指導担当資格審査基準に関する申し合わせ（2017年2月策定）

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
教員の年齢構成について、これまで平均年齢がやや高いことを考慮し、2017年度の学部新規採用	5.2②

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

人事において30歳代1名、40歳代2名を採用し、大学院担当も認めた。また、新規採用者のうち1名は外国人、1名は数年間に及ぶ海外留学経験者であり、グローバルな視野からの教育研究が期待できる。	
--	--

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・組織的にFD等を検討するため、質保証委員会を機能させる必要がある。	5.4①

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学研究科の教員・教員組織について、研究科として教員に求める能力・資質等については、「スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準」等により明らかにされている。研究指導担当においては、資格審査委基準に関する申し合わせにおいて編制がなされている。また、組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在が明確にされ、適切に運用されている。</p> <p>本研究科が目指すスポーツ健康学の多様な教育内容やカリキュラムにふさわしい担当教員が配置されており、特に2017年度には、年齢構成に配慮するとともに、グローバル化に対応した人事がなされ、教育体制の拡充が図られたことは高く評価したい。</p> <p>教員は学部教員との兼務であるが、研究科修士課程の研究指導担当資格審査基準が設けられ、適切に運用されている。</p> <p>なお、課題として、組織的にFD等を検討するため、質保証委員会を機能させる必要があるとしており、その具体的な取り組みが期待される。</p>

6 学生支援

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	
①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>外国人留学生1名(中国人)は、2017年度に2年間の課程を終えて無事に修了した。なお、2018年度はM1、M2生ともに外国人留学生はいない。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②研究科（専攻）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>日常は主指導教員／副指導教員が対応しており、(これまで経験していないが) 問題が生じれば執行部が担うこととしている。特に組織的な対応を行っていない。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科における初の留学生（中国人）は、2017年度に2年間の課程を終えて無事に修了し、現在留学生

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

は在籍していない。学生の生活相談には、主指導教員・副指導教員が日常的には対応しているとのことであるが、今後、留学生の増加に伴う修学支援や在籍学生の増加に伴う学生の生活相談に対する組織的な対応のあり方について検討することを期待したい。

7 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。	
①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※教育研究支援体制の概要を記入。 ティーチング・アシスタント、特別ゲスト講師の活用等、支援体制をとっている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科では、ティーチング・アシスタント、特別ゲスト講師の活用等により教育研究支援が行われている。

8 社会連携・社会貢献

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。	
①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っているか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 主にコーチング領域の学生が学校や地域クラブ等において各種スポーツの指導を行っている。また、アスレティック・トレーナー資格を有する学生が地域の健康運動指導等を定期的に行っている。また、教員免許(専修)取得に関して重要な科目である「保健体育科教育法特別演習」において、埼玉県内の特別支援学校に出向き、障害児童・生徒に対する指導補助を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
学部において2018年度から単位化している海外研修(主にアメリカ・ボイシー州立大学への短期留学)に、大学院生の参加も認めることを検討中である。	8.1①

(3) 問題点

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科では、学生が、学校や地域クラブ等において各種スポーツの指導や地域の健康運動指導等を定期的に行っている。また、授業の一環として特別支援学校における指導・補助を行うなど、教育内容とその成果を生かした社会連携・社会貢献活動が行われていると評価できる。

9 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

①研究科長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※概要を記入。

研究科長(主任を兼ねる)1名、研究科副主任1名を置いている。また、規程にもとづいた研究科教授会を組織し、月1回のペースで定期的開催している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科の運営については、研究科長(専攻主任を兼ねる)、専攻副主任を置き、規程に基づいた研究科教授会を定期的開催しており、適切に運営がなされている。

III 2018年度中期・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	教育課程・学習成果、教員組織等を継続的に点検するため、質保証委員会を機能させる。
	年度目標	博士課程設置へ向けて検討するため、内部質の現状を把握する。
	達成指標	外部委員を入れた委員会による検討会を年間に複数開催する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	「高度専門的職業人の養成」という理念・目的に対応する教育内容であるかについて検証し、新カリキュラム策定(2021年度以降)を目指す。
	年度目標	教育課程・教育内容について教員の意見交換を定期的に行うとともに、「授業改善アンケート」をもとに改善を図る。
	達成指標	全授業科目(スポーツ健康学演習を除く)について「授業改善アンケート」を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	①「高度専門的職業人の養成」という理念・目的に対応する教育方法であるかについて検証し、新カリキュラム策定(教職再課程認定のため2021年度以降)を目指す。
	年度目標	教育方法について教員の意見交換を定期的に行うとともに、全授業科目について「授業改善アンケート」を行う。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		ート」をもとに改善を図る。
	達成指標	全授業科目（スポーツ健康学演習を除く）について「授業改善アンケート」を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	②アクティブラーニング等、学生の積極的な参加型授業を充実する。
	年度目標	アクティブラーニング等、参加型授業の実施を促進する。
	達成指標	アクティブラーニング等、参加型授業の実施率。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	「高度専門的職業人の養成」という理念・目的を達成する学習成果となっているかを検証するための方法を設定する。
	年度目標	①学部卒業生アンケートにより調査する（大学評価室のものを本研究科用に一部改訂）。
	達成指標	学部との共通項目については学部と比較し、その成果基準を超えるようにする。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	「高度専門的職業人の養成」という理念・目的を達成する学習成果となっているかを検証するための方法を設定する。
	年度目標	②修了後の就職状況を把握し、当職に対して学習が役立ったか、他にどんな内容が必要であるか等を調査する。
	達成指標	コメントを質的に分析し、課題を明らかにする。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	着実に入学定員を確保していく。
	年度目標	2019年度入試（2018年度実施）へ向けて広報活動を行い、引き続き定員確保を目指す。
	達成指標	2019年度入学者について定員10名を満たす。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	①現行の修士課程（2016年度開設）において、さらに教育研究指導體制を充実する。
	年度目標	修士論文作成のプロセスにおける副指導教員の役割の明確化。
	達成指標	修士論文の提出前に副指導教員が論文チェックを行ったか。
No	評価基準	教員・教員組織
9	中期目標	②博士課程の設置を検討する。博士課程の設置を目指すことで、全教員の研究が活性化することも期待できる。
	年度目標	博士課程の設置へ向けて、理念・目的、教員組織、定員、教育課程、社会的ニーズ等を検討する。
	達成指標	WGを立ち上げ、継続的に検討できたか。
No	評価基準	学生支援
10	中期目標	①外国人留学生に対する支援の充実
	年度目標	今年度は該当なし
	達成指標	今年度は該当なし
No	評価基準	学生支援
11	中期目標	②生活相談に組織的に対応する。
	年度目標	学生からの生活相談に対する体制を明確にする。
	達成指標	相談が生じた場合の連絡体制が機能しているか。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
12	中期目標	グローバルな視野から社会連携を図り、海外研修等を促進する。
	年度目標	大学院生が学部の海外研修に参加しつつ、指導補助（T.A.）の役割を担うことができるような仕組みを検討する。
	達成指標	T.A.制度の見直しや、海外旅費抛出の仕組み等を検討し、それに伴う課題等を明らかにできたか。
【重点目標】 博士課程の設置へ向けて検討する。修士課程における現状を踏まえつつ、博士課程の理念・目的、教員組織、定員、教育課程、社会的ニーズ等について、WGを立ち上げて検討する。		

【2018年度中期・年度目標の大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

スポーツ健康学研究科は、2017年度に完成年次を迎え、初めて修了生を輩出している。また、2018年度の入学生も十分に確保されており、これまで概ね順調に運営されてきていることがうかがえる。しかし、それに甘んじることなく、中期目標において、現在のカリキュラムが「高度専門的職業人の養成」という理念・目的に対応する教育内容となっているかを検証し、新カリキュラム策定を目指すこととしている点は、積極的な姿勢がうかがえ、評価できる。また、2018年度の達成指標として、外部委員を入れた委員会による検討会を年間に数回開催することとしている。このようなPDCAサイクルに基づく具体的な取り組みが実施されることにより、さらなる成果の維持・向上が図られることを期待したい。

【大学評価総評】

スポーツ健康学研究科は、新たに2016年度に開設され、完成年度の2017年度に5名の修了生を輩出している。2018年度も定員を超える入学者を得ており、これまでの運営は、概ね順調に推移していると判断される。中期目標において、現在のカリキュラムが「高度専門的職業人の養成」という理念・目的に対応する教育内容となっているかを検証し、新カリキュラム策定を目指すこととしている。また、2018年度の達成指標として、外部委員を入れた委員会による検討会を年間に数回開催することとしている。このようなPDCAサイクルに基づく具体的な取り組みが実施されることにより、2年間で得た教育成果を検証し、目標とするスポーツ健康学の分野における多面的な高度専門職業人材の輩出がさらになされるような継続的な取り組みを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。